



マンツーマンコミッショナーのてびき

作成：北海道ミニバスケットボール連盟
マンツーマン推進委員会

1. 前書き

この手引きは、北海道ミニバスケットボール連盟主管大会（夏季交歓大会、北海道大会）において、派遣審判がコミッショナーを行う際に、誰でもコミッショナーの任務を遂行しやすくなればという思いで作成しました。前提として、「JBA マンツーマンディフェンスの基準規則」（※資料1）および「マンツーマンコミッショナーの設置および競技会（試合）における運用について」を熟読しているもの、加えて「マンツーマンの推進」の主旨を理解しているものとして作成しています。この手引きをマニュアルとして理解していただき、コミッショナーとして、子どもたちのためにマンツーマンを正しく指導していただきたいと思えます。

2. コミッショナーの役割

「マンツーマンコミッショナーの設置および競技会（試合）における運用について」に示されている通り、ゲーム中はマンツーマンを監督・管理することが任務です。ですがそれは、違反したものを赤旗やテクニカルファウルで取り締まる、ということではありません。違反を未然に防ぎ、**子どもたちが正しいマンツーマンでミニバスを楽しむことができるようにする**ことをコミッショナーの役割と捉えて任務にあたってほしいと思えます。

3. 審判との連携

（1）試合前

TO席で、主審・副審とともに試合を運営していくという意識で、コミュニケーションをとりましょう。レフリー同士のプレゲームカンファレンスのように、ゲーム前に確認することが大切です。

（2）試合中

短い時間ではありますが、クォーターごとに気になることを話し合ひましょう。黄色旗を挙げたケースでは、どういう場面なのか、その後どうなっているかも情報を共有しておきます。



4. 基本的な見方

- ① コミッショナーは、**立って行うことを基本**とします。黄色旗・赤旗を持って準備します。
- ② ゲームの始まりには、**どの程度マンツーマンについて指導されているかを感じ取る**ようにします。（マッチアップ規準参照）
- ③ 誰と誰がマッチアップしているかよりも、**きちんとマッチアップする意識が感じられるかどうか**を重視します。チェック表の記入が目的ではありません。
- ④ ボール保持が変わったときに、ボール周辺ではなく、**ボールから遠いプレイヤーのマッチアップを見る**ことが大切です。誰にマッチアップしているか、ボールサイドとヘルプサイドを意識しているかを中心に判定します。
- ⑤ 前半、特にクォーターの始まりに、チームのマンツーマンの様子をとらえることが重要です。コーチがマンツーマン、マッチアップのコールなどを意識した声かけをしている場合は、練習で意識して取り組んでいると考えられます。**コーチの声かけに耳を傾ける**ことも大切です。
- ⑥ 気になるときには、**ベンチの方に歩み寄り、違反があったと判断したら黄色旗を上げたままにし、ヘッドコーチに黄色旗が上がっていることに気がついてもらいます**。（前半はベンチ前でそのチームがディフェンスになります）
- ⑦ ボールが高い位置にあるときに、ミドルラインをまたいでゴール下周辺にいるプレイヤーがいた場合は、その**3線のとり方に注意**をはらいます。そのディフェンスがマッチアップを意識しているか、ドライブがあったときにどうなるか、マッチアップしているオフェンスの攻め気はどうか、など、総合的に判断します。
- ⑧ スローインの時には、**スローインするプレイヤーをマッチアップしているプレイヤーに注意**をはらいます。フロントコートのエンドからの時は、さらに**ポストマンについているプレイヤーのつき方にも注意**をはらいます。（ボールを保持していないプレイヤーへのトラップで一発赤旗のケースもあるため）
- ⑨ トラップがあったときには、**トラップそのものだけでなく残りのマッチアップにも注意**をはらいます。また、**終息したときに、マッチアップが明確になっているかどうか**を判定します。
- ⑩ オフェンスプレイヤーがオフェンスに参加する気がない（あるいはコーチから参加しなくていいと言われている）場合は、ディフェンスにマンツーマンの意識があっても違反しているように見えることがあります。（**極度なアイソレーションの場合はディフェンスに責任はない**）

【マッチアップ規準】

- ① ボイス
- ② 指さし
- ③ 目線
- ④ ポジション
- ⑤ スタンス

【トラップ】

積極的にボールを奪いに行く数的優位なディフェンスのこと。



5. 違反があったとき

基本的な見方のもと、マンツーマンに違反があると判断した場合は、下記の手順によって処置します。

① 黄色旗を上げる。

音が鳴るように旗を上げ、違反している側のベンチを指し、反応を確かめます。その現象が解消されるまで旗は上げ続けます。その際、**ベンチには声かけをせずに**、ベンチに旗が上がっていることに気づいてもらいます。

② ゲームクロックが止まる。

黄色旗を上げてから初めてゲームクロックが止まったときやクォータータイム、ハーフタイムなどに、旗を下げます。その際、**必要であればベンチに声をかけ、違反箇所を促します**。あくまでもベンチに気がついてもらう行為ですので、必ず声をかけずとも伝わるかどうか重要です。また、審判ともコミュニケーションを図り、どんなケースで黄色旗が上げたのかを確認します。

③ ゲームを再開する。

同じ違反が起きないか注意をはらいながら判定を続けます。別のケースで違反が起きれば、また黄色旗を上げ、①を繰り返します。

④ 継続して違反が見られる場合。

技術不足、またはオフェンスの動きによって偶発的に違反に見える場合もあります。旗を上げる必要があるかどうかをしっかりと見極めながら、明確かつ継続的な違反行為には毅然とした態度で黄色旗を上げ、**解消しないと判断したときには赤旗を音が鳴るように上げます**。
(上げる勇気・上げない勇気)

⑤ ベンチへ指導を促す。

赤旗を上げたときは、必ずベンチへ伝え、プレイヤーに指導するように促します。まず、審判に赤旗を上げていることに気づいてもらい、ゲームクロックが止まっているときに処置をします。

主審→両ベンチのコーチを TO 前に呼ぶ。

副審→プレイヤーをコート中央に置き、ベンチから別の指示がないように見る。

コミッショナー→違反内容をコーチに伝え、プレイヤーに指導するように伝える。

⑥ ゲームを再開する。

同じ違反が起きないか注意をはらいながら判定を続け、③へ。

⑦ 二度目の赤旗を上げたとき

⑤を再度行い、主審は、ベンチテクニカルファウルを宣する。通常のミニのベンチテクニカルファウルの処置と同様に行う。



おわりに

「マンツーマンディフェンスの基準規則」の「判定に際しての留意点」にもありますが、コミッショナーの役割は違反行為を取り締まることではありません。マンツーマンを普及、推進し、円滑に試合運営を行うことが最大の目的です。つまり、子どもたちが正しいマンツーマンを身につけ、ミニバスケットボールに親しみ、楽しみ、バスケットボールに生涯関わり続ける素地を養うことが大切だと思います。クォーター間、ハーフタイムなどで審判とコミュニケーションをとったり、コーチにしっかりと説明したりしながら、子どもたちのために円滑な試合運営を心がけてコミッショナーの任務を担っていただきたいと思います。

北海道ミニバスケットボール連盟
マンツーマン推進委員会
2017年1月12日発行
2018年1月11日改訂